

# 2023年度 第3四半期 決算概要

長瀬産業株式会社 (証券コード:8012)

2024年2月6日

# Delivering next.

「次」って、未来への接続詞。

# 目次

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 通期業績見通し	P14~P16
■ 株主還元状況	P17
■ 参考情報:事業セグメントの区分方法の変更(2023年10月1日実施)	P18

※ 2023年10月1日より事業セグメントの区分方法を変更しており、前年度、今年度ともに当該変更を反映した組替後の数値を記載しております。

# 連結損益計算書

- ▶ 売上総利益：減収となったが、収益性の高い製造子会社の業績が好調に推移したこと等により、増益
- ▶ 営業利益：売上総利益は増益となったが、人件費等の一般管理費が増加したことにより、減益
- ▶ 四半期純利益：有価証券評価損が減少したが、経常利益の減益を受け、四半期純利益も減益

(単位:億円)

	2022年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	6,956	6,777	△179	97%	9,000	75%
売上総利益	1,184	1,214	30	103%	1,630	75%
<利益率>	17.0%	17.9%	0.9ppt	—	18.1%	—
販売費及び 一般管理費	910	984	74	108%	1,330	—
営業利益	274	230	△44	84%	300	77%
経常利益	274	231	△42	84%	290	80%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	200	180	△20	90%	225	80%
US\$レート (期中平均)	@ 136.5	@ 143.3	@ 6.8 円安		@ 143.0	
RMBレート (期中平均)	@ 19.9	@ 20.0	@ 0.1 円安		@ 20.0	

※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2022年度 第3Q -2,038億円 2023年度 第3Q -2,053億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+33億円 【営業利益】+4億円

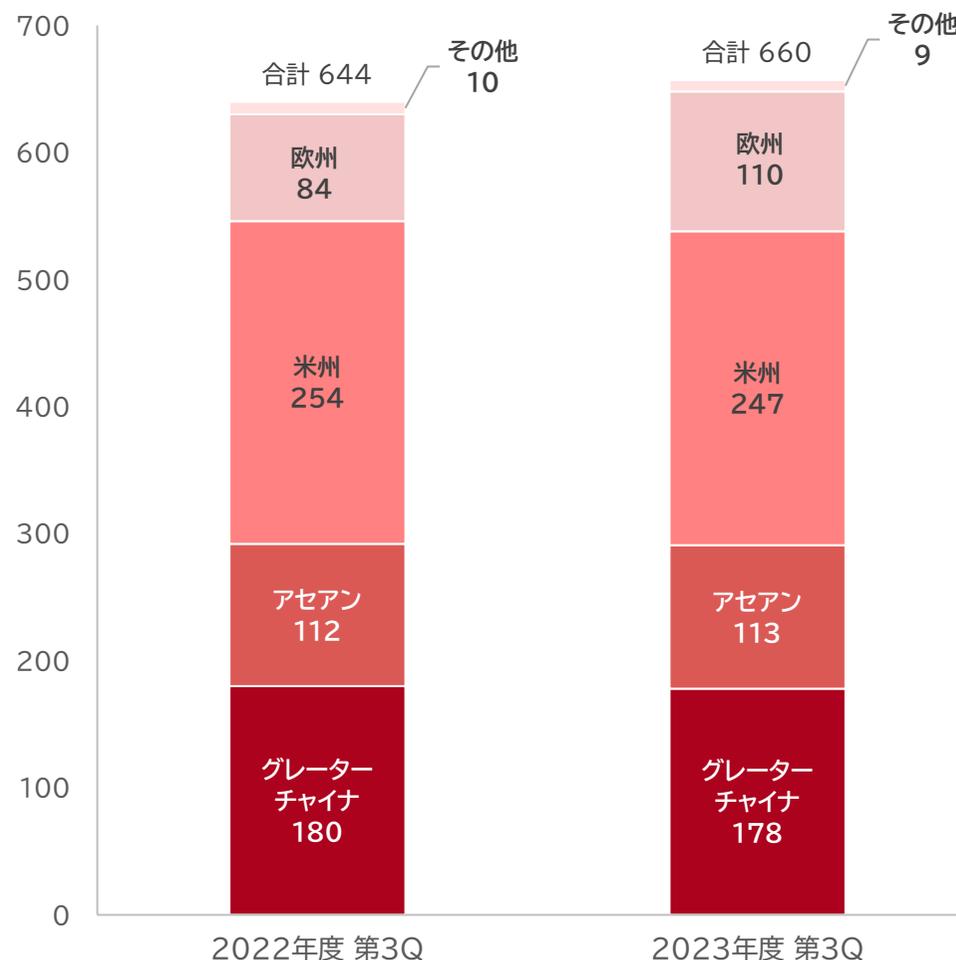
# 所在地別 売上総利益

- ▶ 国内外ともに増益
- ▶ 国内は主に香粧品素材や変性エポキシ樹脂関連の販売増加により、増益
- ▶ 海外は円安による影響や欧州における食品素材ビジネスの収益性回復により、増益

## 国内・海外売上総利益（億円）



## 海外売上総利益の地域別内訳（億円）

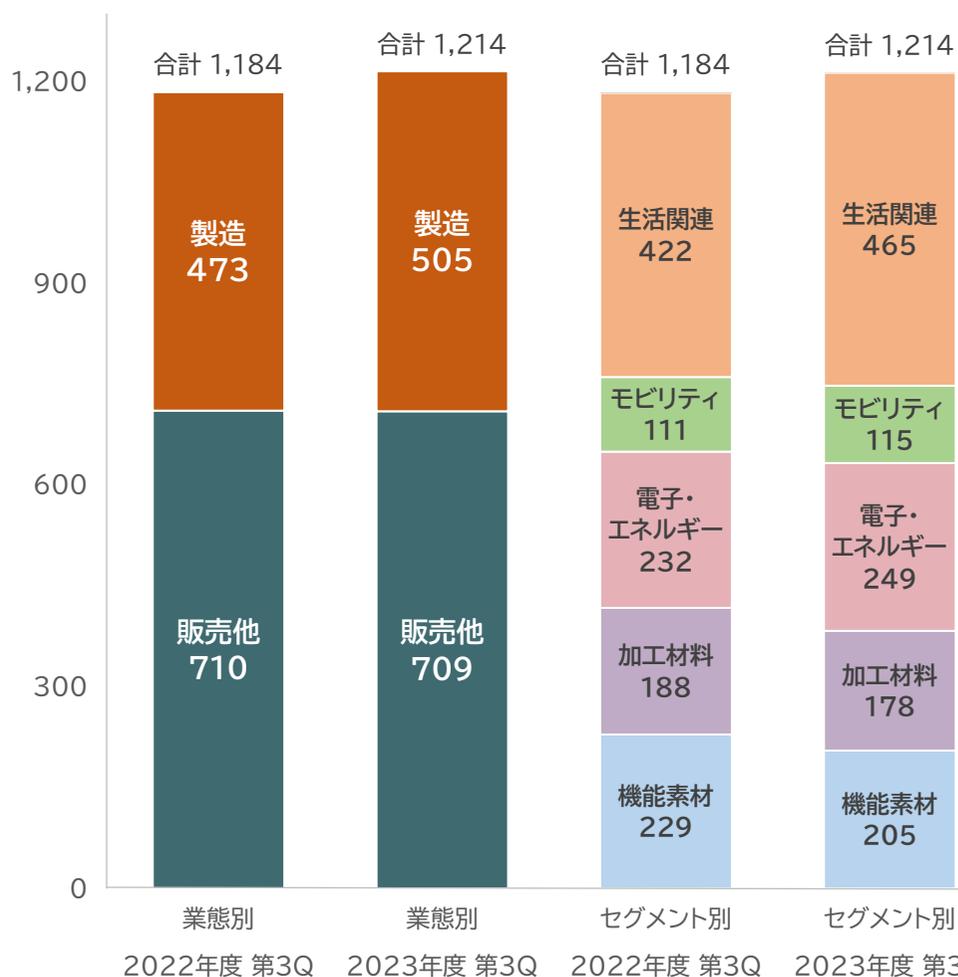


※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

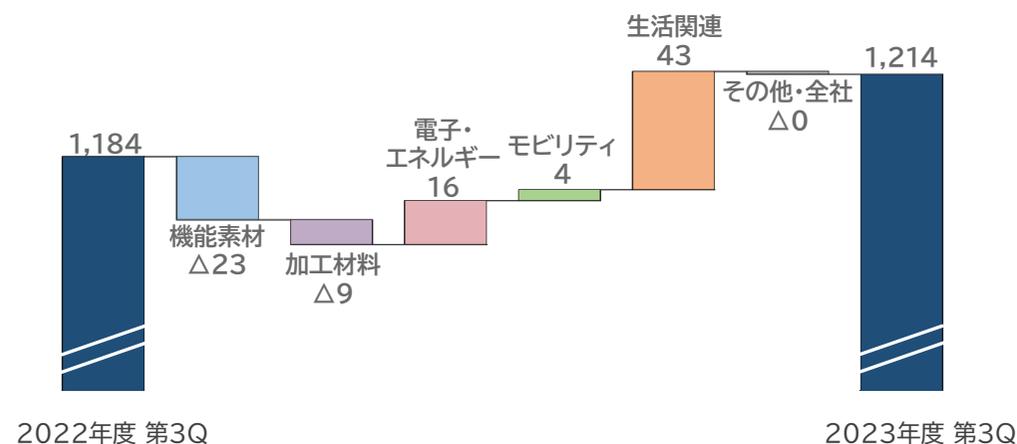
# 業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は塗料原料や半導体関連等の電子業界向け原料の販売減少に加え、情報印刷関連材料の製造業の収益性が低下し、販売も減少
- ▶ 加工材料はOA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売が需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により減少
- ▶ 電子・エネルギーは、半導体業界向け材料販売や変性エポキシ樹脂関連の半導体・モバイル機器向けの販売が増加し、全体として増加
- ▶ 生活関連は食品素材、化粧品素材、医薬品原料の販売が増加

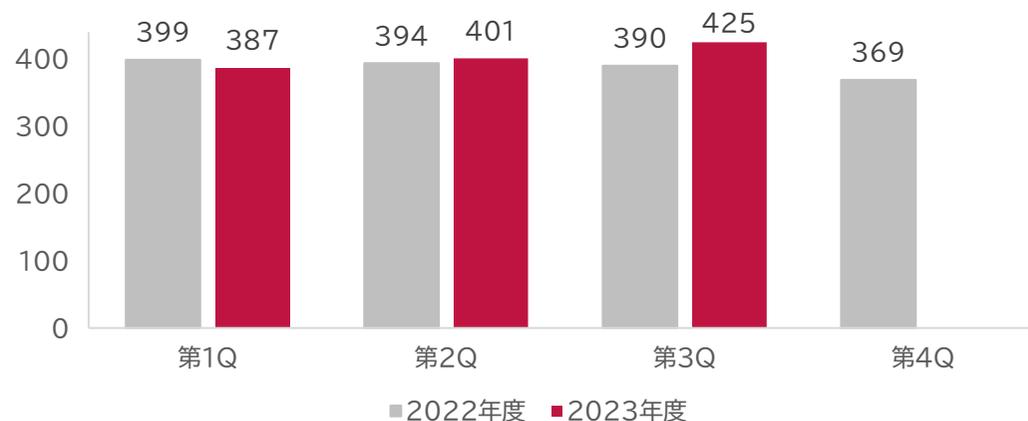
## 業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



## セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



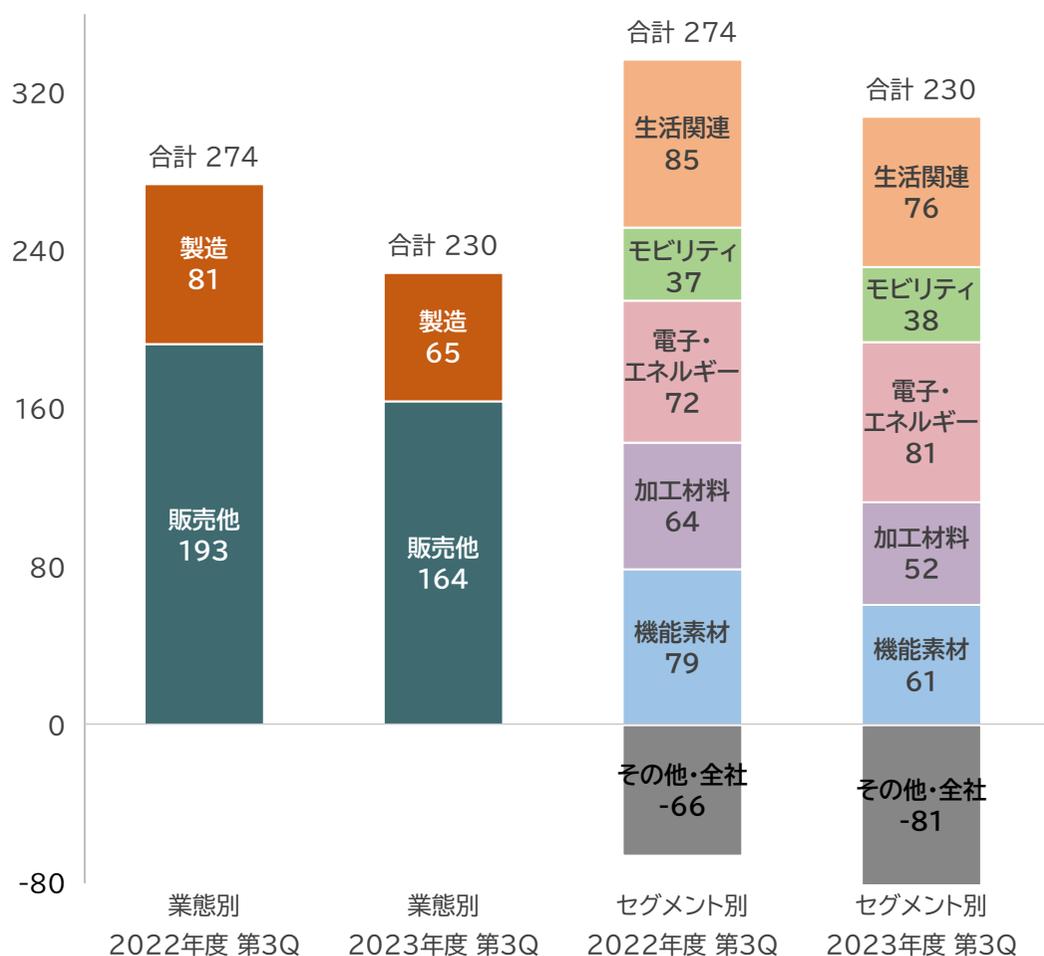
## 売上総利益 四半期推移 (億円)



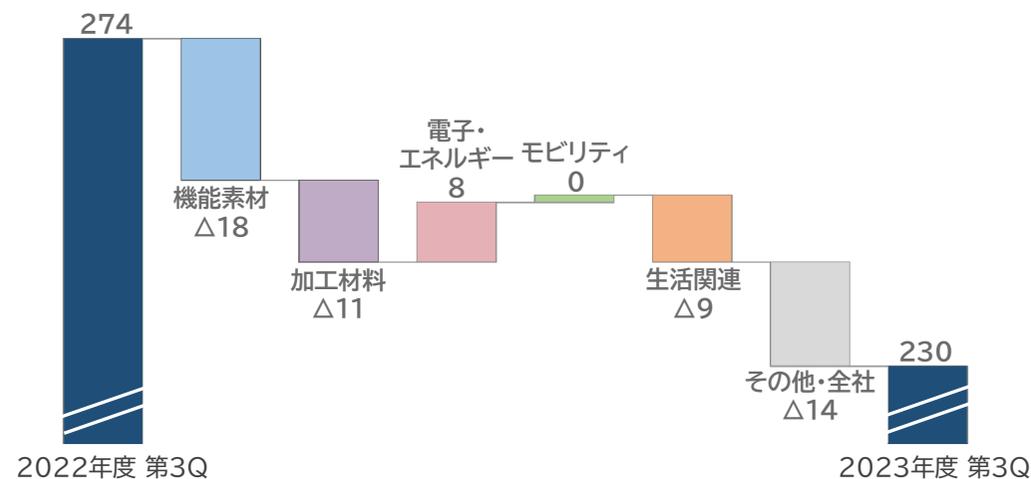
# 業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 機能素材、加工材料は売上総利益の減少により、減益
- ▶ 電子・エネルギーは売上総利益の増加により、増益
- ▶ 生活関連は売上総利益は増加したが、主にPrinovaグループの人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、減益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

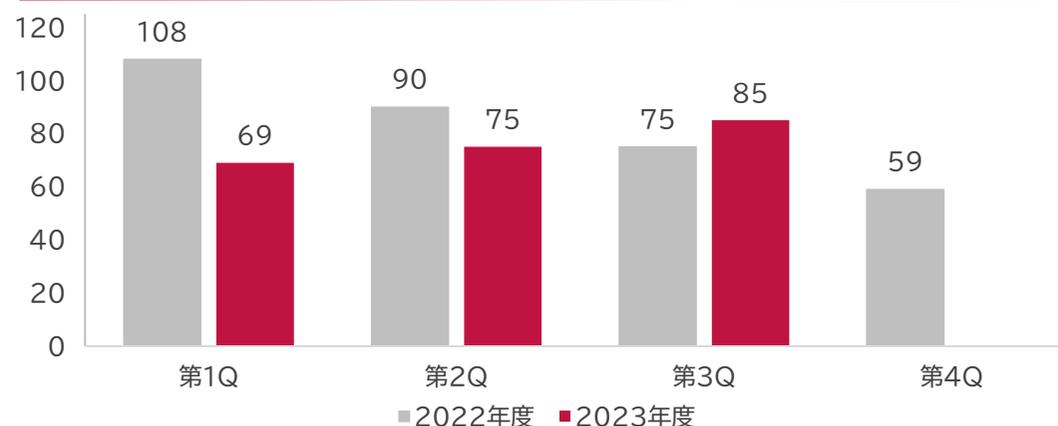
## 業態・セグメント別 営業利益 (億円)



## セグメント別 営業利益 増減 (億円)



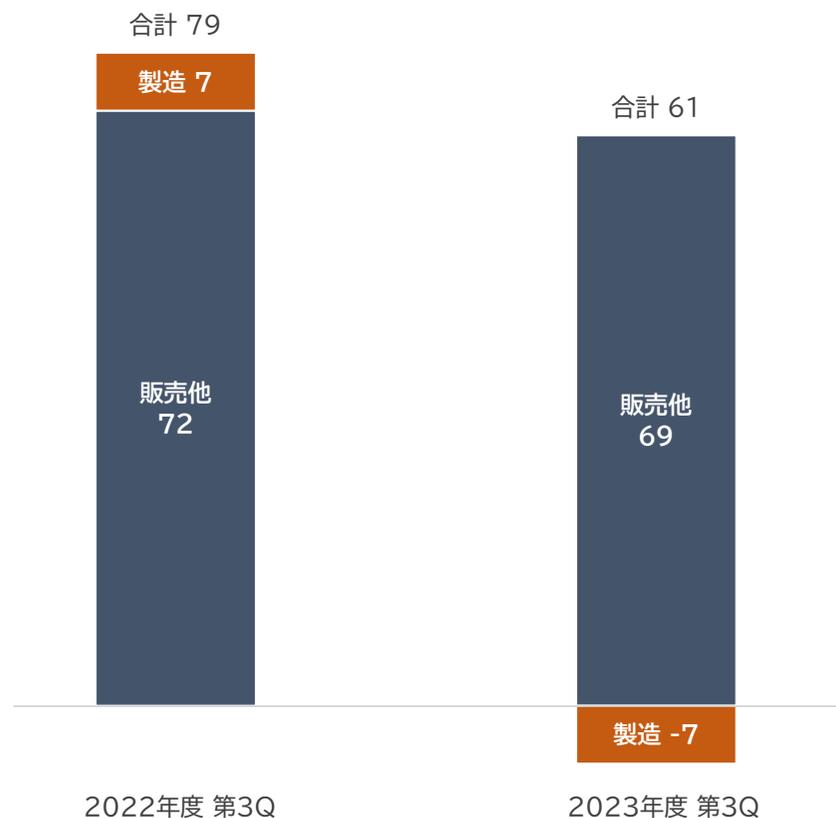
## 営業利益 四半期推移 (億円)



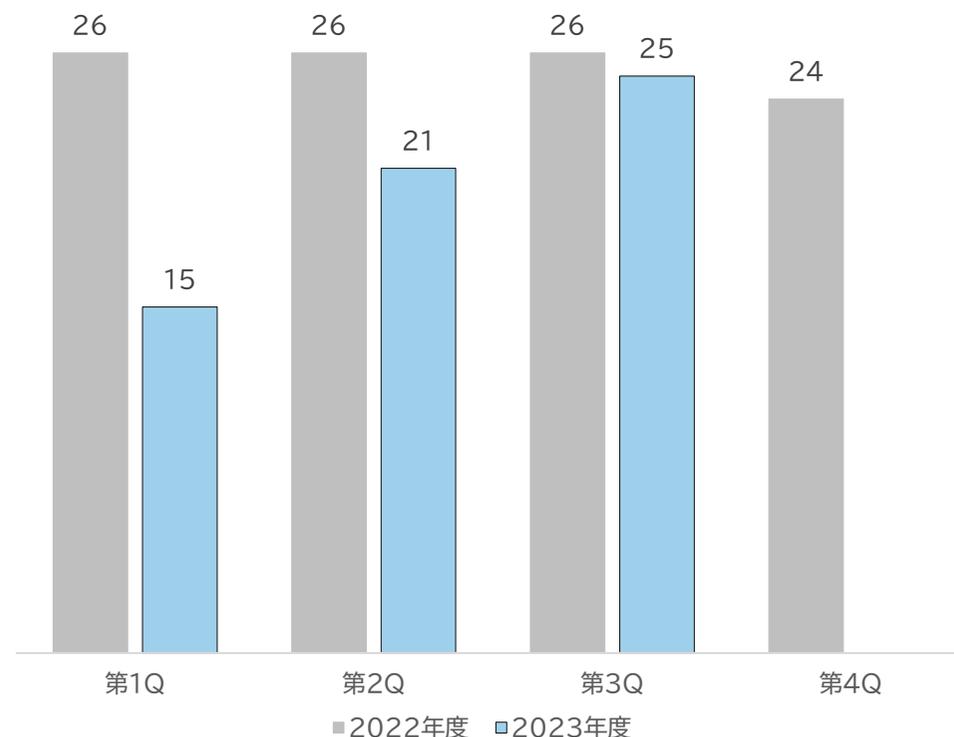
# セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 自動車業界等向けは復調も、建築用途の不調により全体として塗料原料の販売が減少
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売が減少
- ▶ 情報印刷関連材料は製造業の収益性が低下し、販売も減少
- ▶ 顧客の在庫調整や、製造業の収益性低下により、前年同期と比べて減益

### 業態別 営業利益（億円）



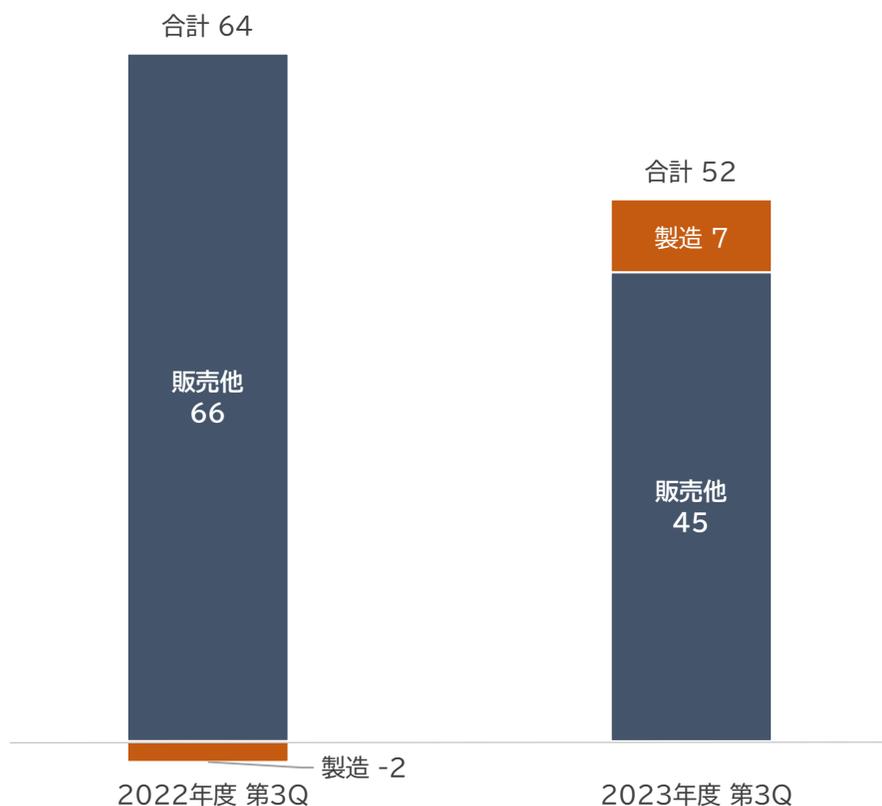
### 営業利益 四半期推移（億円）



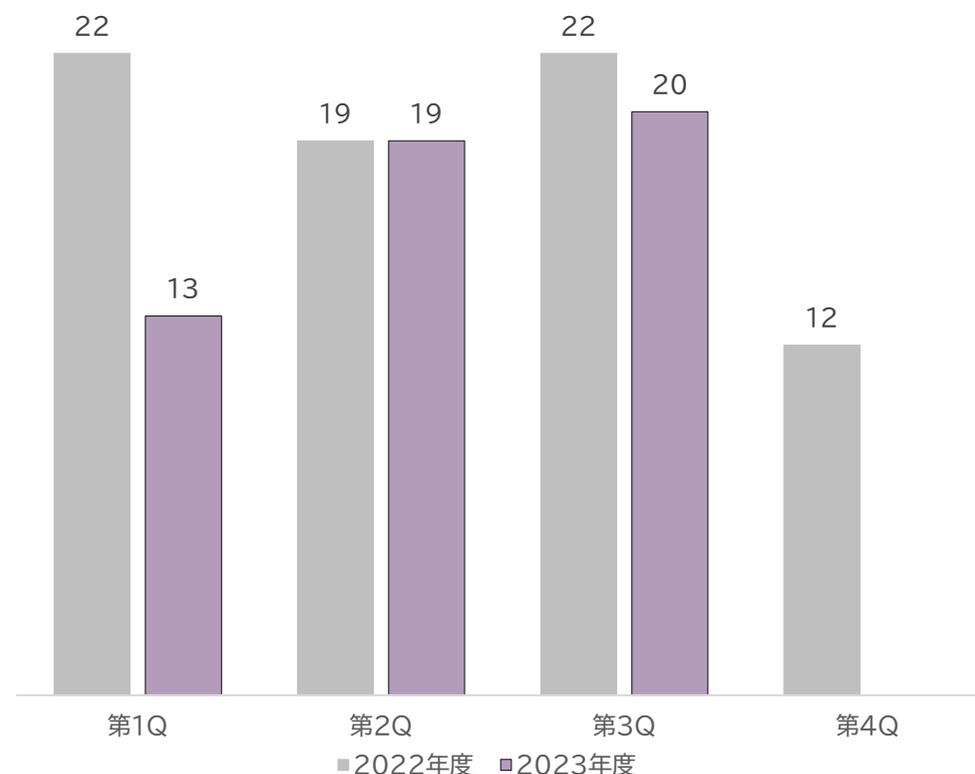
# セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ OA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売は需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により、減少
- ▶ 製造業は前期一部の子会社で減損損失を計上したことによる費用減少に加え、販売が好調なことから、黒字化
- ▶ 全体としては、樹脂販売減少の影響が大きく、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



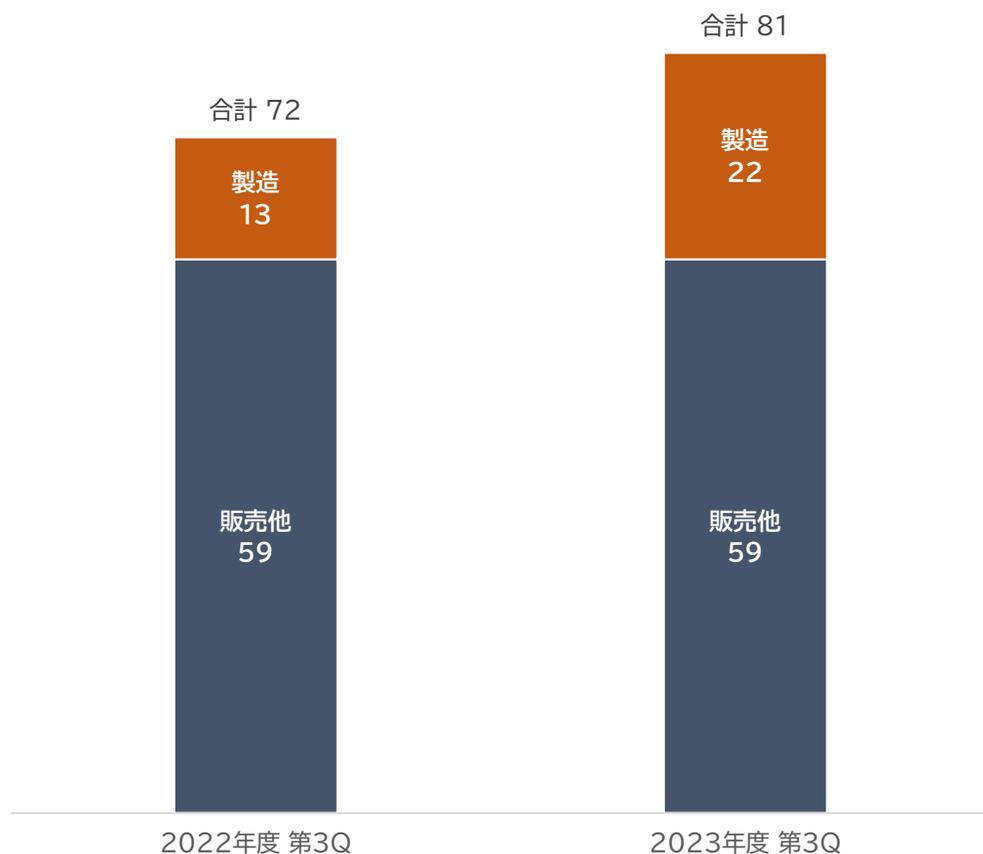
## 営業利益 四半期推移（億円）



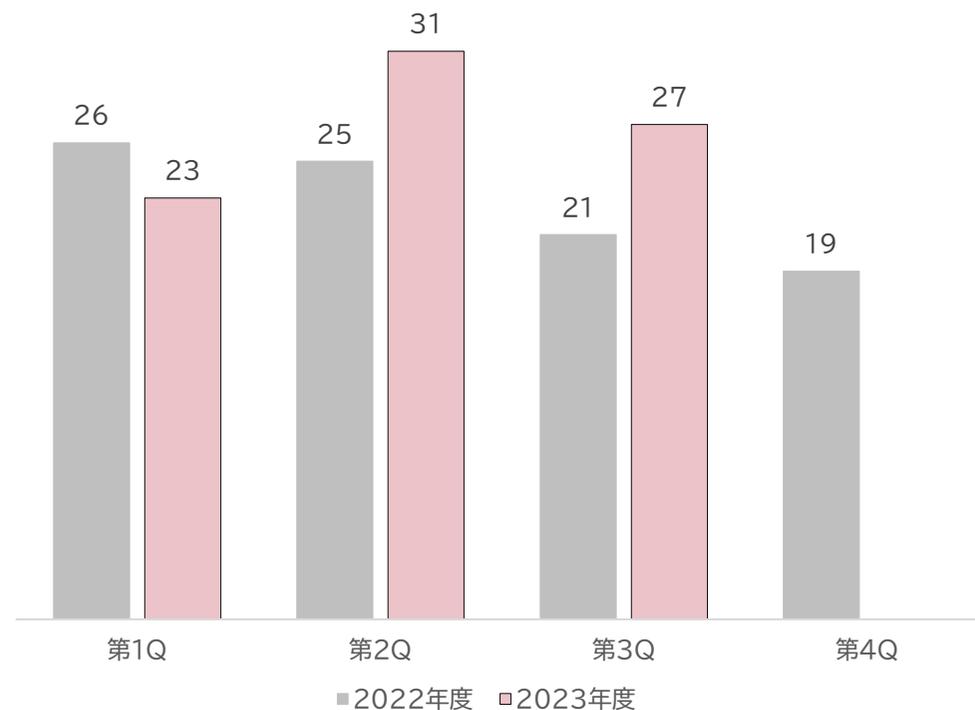
# セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ 半導体業界向け材料販売は半導体市況の悪化はあるものの、商材の拡充等もあり増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連は、主にサーバー用の半導体向け、モバイル機器向けの販売が増加
- ▶ 全体としては、変性エポキシ樹脂関連の販売好調により、前年同期と比べて増益

## 業態別 営業利益（億円）



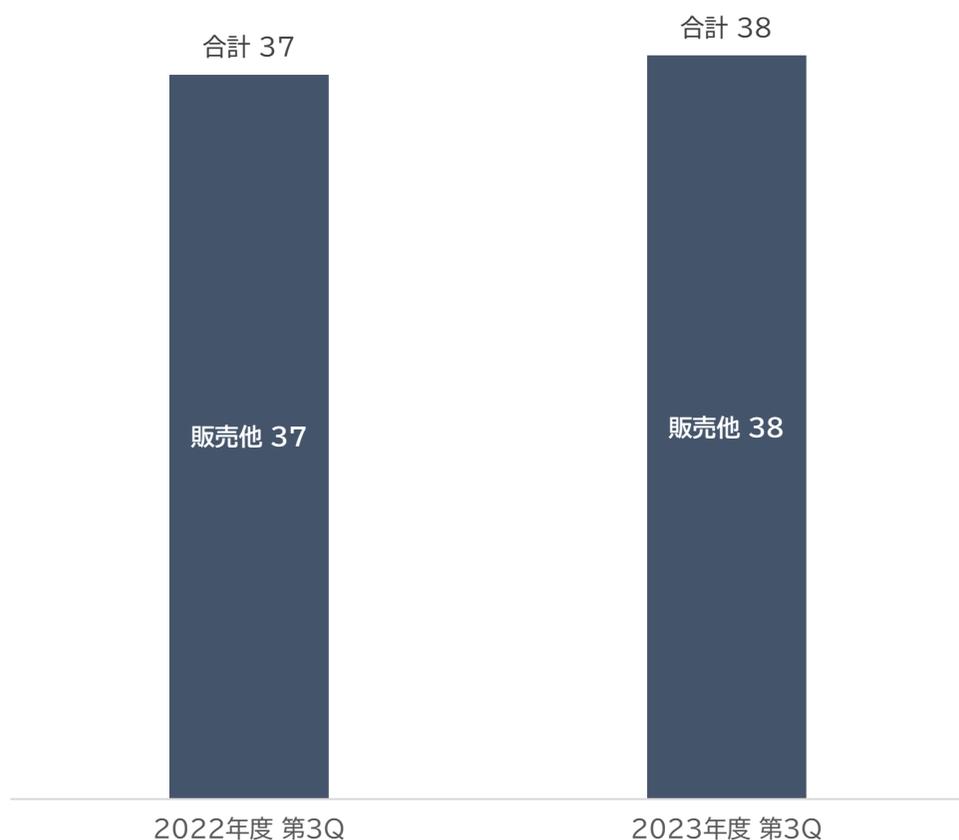
## 営業利益 四半期推移（億円）



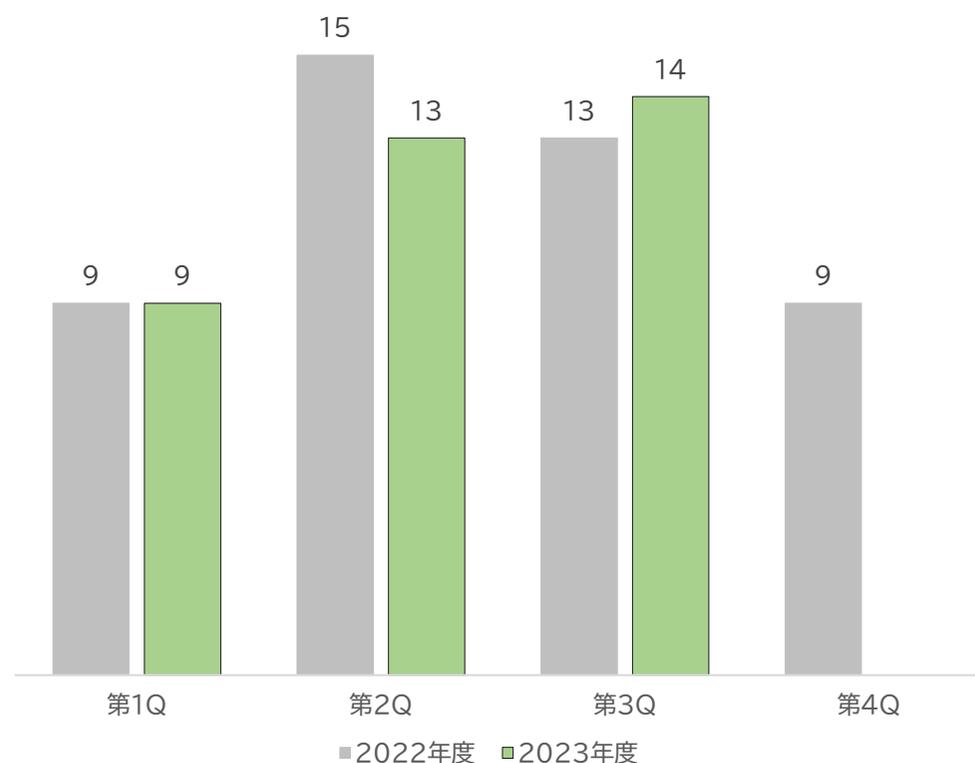
# セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 樹脂の販売は、自動車生産台数の増加や既存顧客向けへのシェア拡大等により増加
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 売上総利益の増益により、前年同期と比べて増益

## 業態別 営業利益 (億円)



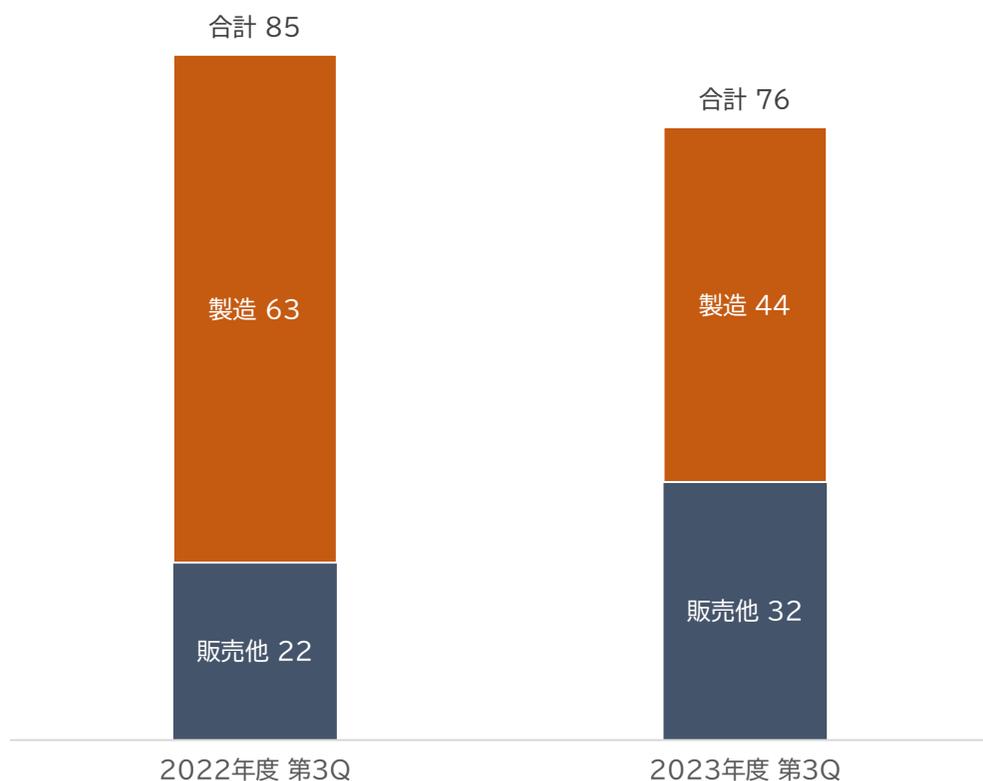
## 営業利益 四半期推移 (億円)



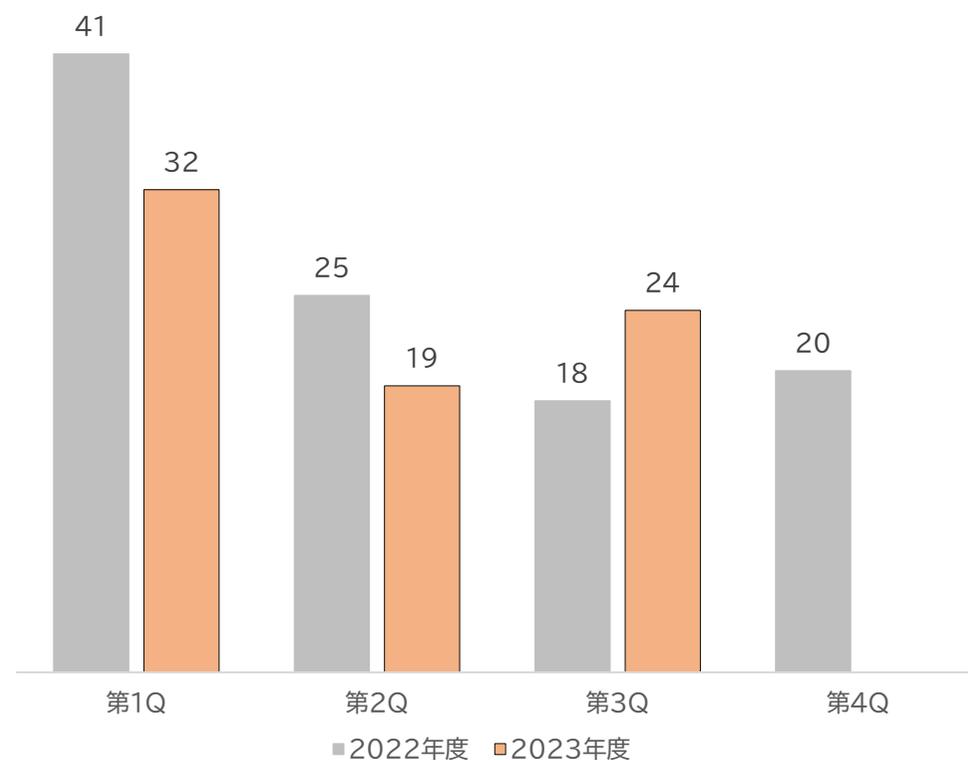
# セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループはユタ新工場の稼働もあり、全体として販売が増加
- ▶ 林原は主に香粧品素材の販売が増加
- ▶ 売上総利益は増加したものの、主にPrinovaグループの人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



## 営業利益 四半期推移（億円）



■ 2022年度 ■ 2023年度

# 主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：林原への生化学品事業の移管があったものの、収益性の高い変性エポキシ樹脂関連の販売が増加したことにより、増益
- ▶ 林原：原材料・ユーティリティ価格高騰分の価格転嫁が進んだことや需要の回復を受けた化粧品素材の販売好調により、増益
- ▶ Prinovaグループ：製造業における販売増加はあったものの、人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、減益

(単位:億円)

		2022年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
ナガセケムテックス	売上高	195	189	△6	97%	247	76%
	売上総利益	52	58	5	111%	77	76%
	営業利益	13	21	8	164%	24	87%
林原	売上高	212	259	47	122%	347	75%
	売上総利益	79	95	16	120%	128	74%
	営業利益	29	40	10	136%	52	78%
	のれん等償却費	23	23	-	100%	30	75%
	償却費負担後営業利益	6	17	10	255%	21	83%
Prinova グループ	売上高	1,453	1,454	1	100%	1,943	75%
	売上総利益	242	261	18	108%	355	74%
	営業利益	70	43	△27	62%	62	70%
	のれん等償却費	17	18	1	108%	25	74%
	償却費負担後営業利益	53	24	△28	46%	36	68%

# 連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：縮減を進めてきた棚卸資産が減少
- ▶ 純資産：配当金の支払い・自己株式取得もあったが、四半期純利益の計上、有価証券評価差額、為替換算調整勘定の増加等もあり増加

(単位:億円)

	2023年3月末	2023年12月末	増減額	主な増減
流動資産	5,301	5,423	122	
（現金及び預金）	408	532	123	
（売掛債権）	3,021	3,224	203	
（棚卸資産）	1,697	1,486	△210	
固定資産	2,325	2,460	134	
（投資有価証券）	697	746	48	
資産の部合計	7,626	7,883	256	
流動負債	2,862	2,965	103	1年内返済予定の長期借入金+68、短期借入金・CP△123
（買掛債務）	1,404	1,570	165	
固定負債	980	966	△14	リース債務+33、繰延税金負債+12、長期借入金△65
負債の部合計	3,843	3,932	89	
株主資本	3,090	3,085	△5	
その他の包括利益累計額	586	797	211	為替換算調整勘定+172、その他有価証券評価差額金+32
非支配株主持分	107	68	△38	
純資産の部合計	3,783	3,951	167	
運転資本	3,313	3,140	△173	
自己資本比率	48.2%	49.3%	1.0ppt	
NET D/ELシオ	0.38	0.30	△0.07	

# 2023年度 通期業績見通し(変更なし)

- ▶ 樹脂販売の不調等により減収も、製造子会社の収益性改善の影響や販売好調等もあり、売上総利益は増益見込み
- ▶ 販売費及び一般管理費は、Prinovaグループのユタ新工場の費用先行により、全体として売上総利益の増加を上回る
- ▶ 2023年11月に発表した2023年度の修正見通しにおける前提に大きな変更はなく、見通しに近い着地を見込む

(単位:億円)

	2022年度 実績	2023年度 見通し	増減額	前年比
売上高	9,128	9,000	△128	99%
売上総利益	1,554	1,630	75	105%
<利益率>	17.0%	18.1%	1.1ppt	
販売費及び 一般管理費	1,220	1,330	109	109%
営業利益	333	300	△33	90%
経常利益	325	290	△35	89%
親会社株主に帰属 する当期純利益	236	225	△11	95%
US\$レート (期中平均)	@ 135.5	@ 143.0	@ 7.5	円安
RMBレート (期中平均)	@ 19.7	@ 20.0	@ 0.3	円安

# 2023年度 セグメント別業績見通し(変更なし)

- ▶ 機能素材は塗料原料、半導体関連等の電子業界向けの原料販売減少に加え、情報印刷関連材料事業の収益性悪化により減収減益
- ▶ 加工材料は製造子会社が損益改善するものの、OA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売の減少により、全体としては減収減益
- ▶ 電子・エネルギーはナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂関連等、高収益品の販売増加により収益性が改善し増収増益
- ▶ 生活関連はPrinovaグループのユタ新工場の利益貢献が遅れるも、林原の収益性回復に加え中間体・医薬品原料の販売増加等もあり、増収増益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

(単位:億円)

		2022年度 実績	2023年度 見通し	増減額	前年比
機能素材	売上高	1,561	1,540	△21	99%
	売上総利益	298	275	△23	92%
	営業利益	104	83	△21	79%
加工材料	売上高	2,209	1,970	△239	89%
	売上総利益	242	236	△6	97%
	営業利益	76	69	△7	90%
電子・エネルギー	売上高	1,369	1,390	20	101%
	売上総利益	307	335	27	109%
	営業利益	92	111	18	120%
モビリティ	売上高	1,255	1,299	43	103%
	売上総利益	144	149	4	103%
	営業利益	47	48	0	100%
生活関連	売上高	2,731	2,800	68	103%
	売上総利益	559	634	74	113%
	営業利益	105	108	2	102%
その他・全社	売上高	0	1	0	122%
	売上総利益	1	1	0	62%
	営業利益	-94	-119	△24	—
連結合計	売上高	9,128	9,000	△128	99%
	売上総利益	1,554	1,630	75	105%
	営業利益	333	300	△33	90%

※ 2023年10月1日より事業セグメントの区分方法を変更しており、当該変更を反映した組替後の数値を記載しております。

# 主要製造子会社の業績見通し(変更なし)

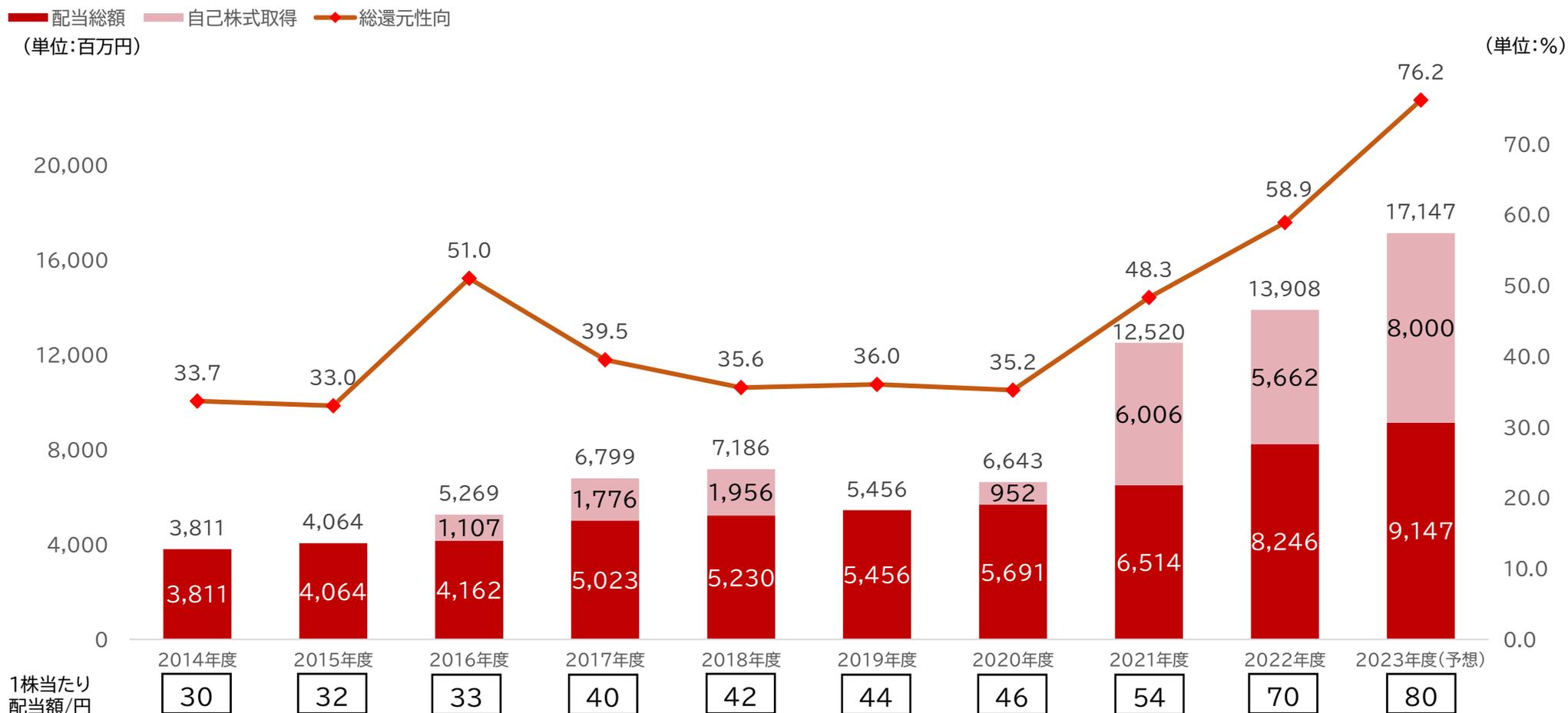
- ▶ ナガセケムテックス：高収益の変性エポキシ樹脂関連の販売が好調だが、生化学品事業移管等あり、減収増益
- ▶ 林原：原材料・ユーティリティ価格高騰を受けた価格改定の完了と化粧品素材の販売好調等により、営業利益は増益
- ▶ Prinovaグループ：ユタ新工場の稼働もあり売上総利益は増益を見込むが、人件費等の一般管理費の増加による利益貢献の遅れもあり、営業利益は減益

(単位:億円)

		2022年度 実績	2023年度 見通し	増減額	前年比
ナガセケムテックス	売上高	253	247	△6	98%
	売上総利益	68	77	8	113%
	営業利益	18	24	6	136%
林原	売上高	281	347	66	124%
	売上総利益	103	128	25	124%
	営業利益	37	52	14	137%
	のれん等償却費	30	30	-	100%
	償却費負担後営業利益	7	21	14	298%
Prinova グループ	売上高	1,927	1,943	15	101%
	売上総利益	312	355	42	114%
	営業利益	80	62	△18	77%
	のれん等償却費	24	25	1	106%
	償却費負担後営業利益	56	36	△20	64%

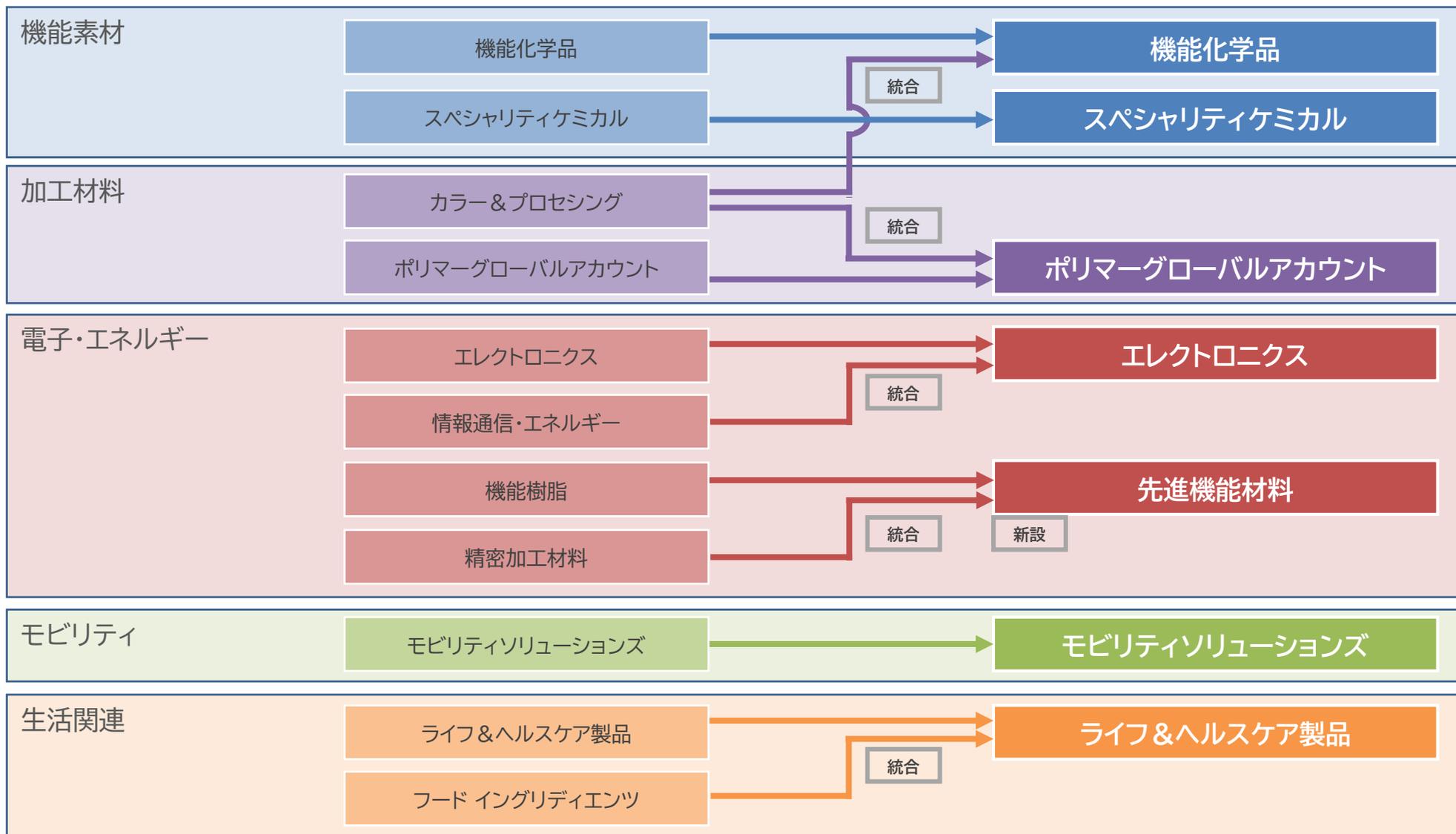
# 株主還元状況

- ▶ 2023年度の1株当たり配当金は中間40円、期末40円の年間80円を予定(14期連続増配見通し)
- ▶ 2023年5月に決議した80億円の自己株式取得は12月で完了
- ▶ 増配および自己株式取得による還元拡充もあり、2023年度の総還元性向は76%となる見込み



※ 2023年度の期末配当金は、2024年6月開催予定の第109回定時株主総会に附議予定です。

# 参考情報：事業セグメントの区分方法の変更(2023年10月1日実施)



# **NAGASE** | Delivering next.

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2024年2月6日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。